

1月 ひよこぐみだより

岐阜市大門町1番地 聖徳保育園



あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひします



新しい1年が始まりました。お家の方と楽しく過ごしたお休みが終わり、久しぶりに友だちと会えてみんな嬉しそうです。探索活動が盛んになってきている今日この頃、さまざまな物への興味・関心が広がってきました。また“保育士”との信頼関係もでき、子どもたちはひとり遊びから“友だち”への興味も広がり始めています。自分から友だちのところに行き、囁語を交えて話しかける姿が見られます。今年度も残すところあと3ヶ月。子どもたちの「やりたい」と思うことを実現できるよう見守りながら、一つひとつの経験を大切に過ごしたいと思います。



- ◎ 一人一人の体調に留意し、寒い冬を快適に過ごせるようにする
- ◎ 好きな遊びをしながら、保育士の言葉がけやしぐさのやりとりを楽しむ

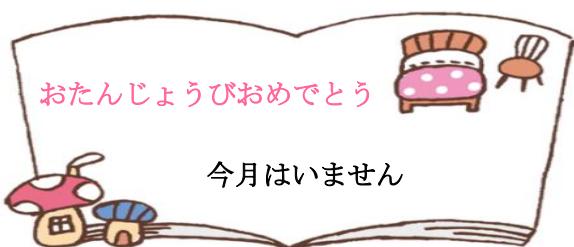


今月の予定



1日(木)	元旦
5日(月)	第3学期始業式 バス送迎始まり
6日(火)	発育測定 誕生児写真撮影
10日(土)	園内外消毒
12日(月)	成人の日

16日(金)	避難訓練
17日(土)	園内外消毒
23日(金)	誕生会
24日(土)	園内外消毒
28日(水)	交通安全教室 歯科検診
31日(土)	園内外消毒



脳の発達とふれあいあそび

子どもの脳は、1～3歳頃まで急激に発達します。いろいろな物を見たり、音を聞いたり、体を動かしたりと、五感を通した刺激を受けて、ぐんぐん発達していきます。肌に触れたり、話しかけたりしながら親子で楽しくふれあうことで、多くのことを吸収していきます。

子どもの心

子どもたちは生まれつき「微笑む」「見る」「聴く」「抱きつく」といった行動をとることで母親の反応を待っているものです。

忙しく、つい子どもと接する時間が少なくなってしまったり、“微笑む”ということを忘れてしまっていることはありませんか？感受性が豊かな子どもは母親の気持ちをすぐに受けとめてしまいます。

母親は「微笑み」「話しかけ」「抱く」ということで子どもの気持ちに反応し、これを繰り返すことにより、母子関係が成立していきます。一度立ち止まり、子どもと向き合っていく時間をもてるといいですね。

冬の健康管理をしっかりと

これから一段と寒さが増し、風邪などをひきやすくなります。子どもは体の調子が悪くても言葉で訴えることはできません。また、抵抗力の弱い乳幼にとって冬の病気はとりわけ注意が必要です。

☆ 37.5℃が注意の目安！

- ・機嫌は良いか？・顔色は良いか？・呼吸は苦しそうではないか？

《冬にかかりやすい病気》

◎ 鼻風邪



鼻水、鼻づまり、咳などの症状が現れ、発熱、下痢、嘔吐など出ることがあります。

◎ インフルエンザ

初期症状は風邪と区別ができません。次第に症状が重くなり、関節痛や筋肉痛、下痢、嘔吐など全身症状も強く現れます。

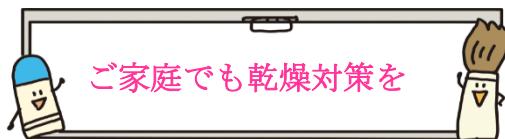
◎ 感染胃腸炎（乳児下痢症）

主にウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス）による感染胃腸炎が圧倒的に多いです。中でもノロウイルスの胃腸炎は集団感染することも多く、予防・管理に注意したい病気です。12～3月まで多いです。

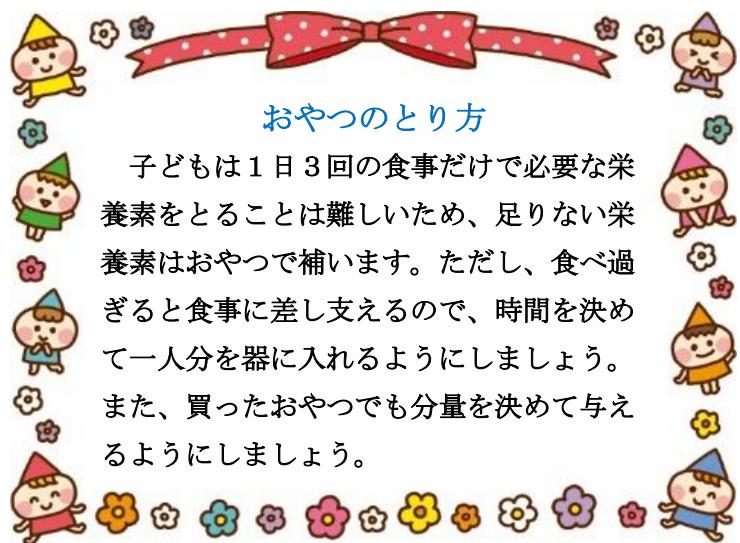


嘔吐をしたら

嘔吐物の処理をする際には、二次感染しやすいので気を付けましょう。すぐに窓を開け、ゴム手袋とマスクを必ず着け、処理後は二重にした袋に密封して捨ててください。拭き取ったあとは次亜塩素ナトリウムを0.1%（水1ℓに対して原液1mℓを入れた物）の薄めた物で拭きましょう。



空気が乾燥してウイルスが増殖しやすく、風邪をひきやすい時期です。湿度を保つためには加湿器を上手に使うほか、室内に濡れたタオルを干す、コップ一杯の水や観葉植物を置くといった方法も手軽でおすすめです。また、湯気の出る鍋を囲むと乾燥と風邪の両方の対策ができますよ。



子どもは1日3回の食事だけで必要な栄養素をとることは難しいため、足りない栄養素はおやつで補います。ただし、食べ過ぎると食事に差し支えるので、時間を決めて一人分を器に入れるようにしましょう。また、買ったおやつでも分量を決めて与えるようにしましょう。

おはなししたい

自我が芽生える1歳代では、「これじゃなく、向こうにある、あれが欲しかった」「自分でできた、うれしい」など自分なりの思いが出てきます。大人は子どもから出てきた思いをくみ取って言葉にし、伝えるようにしましょう。すると今度は子どもから、「まだだったの」「できたよ」と自分の思いを伝える言葉が出てくるようになります。1歳児に大切なのは、思ったこと、感じたことを表現できること。それができると、この時期に多い噛みつきやひつかきがぐんと減ってきます。丁寧なやりとりの中で、身に付けていけるようにしましょう。